

平成30年度 大阪市立松虫中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

3 「大阪市中学生3年生統一テスト」の調査の目的

- (1) テスト結果を個々の生徒の評定（内申点）に活用し、平成30年度大阪府公立高等学校入学者選抜における調査書に記載する評定の公平性、信頼性を確保する。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

**平成30年度 大阪市立松虫中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—**

1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)					平均無解答率(%)				
			国語A	国語B	数学A	数学B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
3 年	学校	96	77	60	71	51	68	3.2	2.3	1.5	10.3	3.8
	大阪市	—	74	58	63	44	63	3.6	4.1	3.7	14.9	5.9
4月17日	全国	—	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1	3.1	3.0	3.3	12.6	5.0

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	95	54.3	51.2	61.9	61.4	58.7	15.2	3.4	8.6	5.0	2.5
	大阪市	—	51.6	48.1	56.7	56.5	56.2	16.9	4.6	10.5	7.2	3.8
9月6日	大阪府	—	53.0	49.5	58.9	58.0	58.5	16.0	4.5	10.3	7.3	3.6

3 大阪市中学校3年生統一テスト

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)				
			国語	社会	数学	理科	英語
3 年	学校	94	61.8	62.1	65.3	64.0	63.0
10月4日	大阪市	—	60.2	58.8	59.2	57.1	60.7

平成30年度 大阪市立松虫中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

全国学力・学習状況調査

「国語」

国語ABとともに、大阪府の平均正答率を上回っていた。しかし、全国平均で考えると国語Bでは平均正答率が下回っていた。詳しく見ていくと「話すこと・聞くこと」において、国語Aは全国平均より0.5P高かったが、国語Bでは全国平均より1.6P低かった。「書くこと」では、国語Aは全国平均より0.7P低かったが、国語Bは4.1P高かった。「読むこと」では、国語Aは全国平均より1.2P高かったが、国語Bは1.1P低かった。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、国語Aは全国平均より0.7P高く、国語Bは3.9P高かった。「書くこと」においては、定期テストごとに作文課題をだしている成果が出てきていると考えられる。今後も続けていこうと考えている。

「数学」

数学ABとともに、全国・大阪府の平均正答率を上回っていた。主として知識を問う数学Aでは、「数と式」「関数」「資料の活用」の領域で5P以上上回っており、授業で基礎学力の定着に努めた成果があつたと考えられる。「図形」領域でも上回っていたが、小学校で習った内容の問題に対する正答率が低かったので、今後の課題としたい。主として活用力を問う数学Bでも全領域において上回っており、少人数授業を行っている成果があつたと考えられる。

「理科」

理科においては、全国・大阪府の平均正答率を上回っていた。特に物理分野において全国平均より4.8P高かった。また、選択式や短答式の出題に対しての正答率は高かったのに対し、記述式の出題に対しての正答率は全国平均より1Pしか高くなかったので、今後、記述式の出題にも対応できるように学習を進めていきたいと考えている。

【今後に向けて】

「国語」

全体的なバランスを見ても不安定なため、基礎的な力に加え、発展的な力や応用力などを高められるよう、アクティブラーニングを取り入れたり、宿題を効率よく活用したりなどして「話す・聞く」の力や「書く」「読む」の力などをつけていけるよう努める。

「数学」

基礎学力の定着から応用につなげることを目的として少人数授業を行っており、数学ABとともに全国・大阪府の平均正答率を上回る成果を出すことができたと考えられる。今後も基礎学力だけでなく、発展的な力の育成にも継続して努める。

「理科」

物理・化学・生物・地学などの分野においても、実験の結果を考察する授業をさらに継続して行い、基礎的な知識を高めるだけでなく、化学的な思考力を育成することに努める必要がある。

平成30年度 大阪市立松虫中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

【成果と課題】

【3年生チャレンジテスト】

「国語」

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の項目で大阪市・大阪府ともに平均をおおむね上回っているが、記述式の問題では大阪市・大阪府ともに平均を下回っていた。

「社会」

地理的分野、歴史的分野ともに大阪市・大阪府の平均以上の得点を取ることができた。「社会的な思考・判断・表現」と「社会的事象についての知識・理解」で平均以上の得点が残せたのは、テスト前の語句テストや定期テストでの記述式の問題を増やしたことの成果であると考えられる。一方、「資料活用の技能」で平均を下回っていた。

「数学」

大阪市の平均を5点以上上回っていた。「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の全領域において上回っており、少人数授業の形態をとり基礎学力の定着に努めた成果があったと考えられる。なお、平均無解答率では市・府の平均を下回っていた。

「理科」

平均得点が大阪府より3.4ポイント大阪市より4.9ポイント上回っていた。「物理・化学・生物」の3分野で大阪府・大阪市より得点が高かった。ただし、「地学」分野で大阪府の平均と同じであった。特に選択式問題、短答式問題での得点が高い。しかし、記述式では大阪府平均より0.1ポイントしか上回らなかつたので、今後の課題とする。

「英語」

「聞くこと」「書くこと」「外国語理解の能力」「外国語表現の能力」については良好であるが、「読むこと」「言語や文化について知識・理解」について課題がある。平均点では大阪市を2.5ポイント、大阪府を0.2ポイント上回っている。無解答率については大阪市を1.3ポイント、大阪府を1.1ポイント下回り、良好な結果となった。

【今後に向けて】

「国語」

今までも定期テスト等で作文課題を出しているが、記述式の問題で大阪市・大阪府ともに平均を下回っており、まだ定着していない部分もあるため、引き続き実施し力をつけていきたい。

「社会」

「資料活用の技能」が平均を下回っているので、ICTを活用しながら様々な資料を提示することで資料の見方・考え方を身につけさせられるように指導していきたい。

「数学」

大阪市・大阪府の平均は上回っているが、「数学的な見方」の観点のポイントが低いので、基礎学力の定着から応用につなげることが今後の課題である。また、無解答率をもっと下げられるよう指導を続けたい。

「理科」

4分野において平均解答率は高かったが、記述式の設問に弱いことが分かつたので、今後内容をしっかりと熟知できるような授業展開、課題を設けていきたいと考える。

「英語」

「読むこと」については大阪市を上回っているが、大阪府を0.3ポイント下回った。「言語や文化についての知識・理解」の観点において、ボキャブラリービルディングの強化、リーディングに特化した指導が必要である。

平成30年度 大阪市立松虫中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

【成果と課題】

【3年生統一テスト】

「国語」

ほとんどの領域において市平均を上回っており、特に「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、「読むこと」で3ポイント、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で1.7ポイント上回った。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、漢字の力をつけるために小テストなどを行ってきた成果が出始めていると考えられる。しかし、「書くこと」では2ポイント下回っている。記述式の問題は必ず出題されるため、作文課題も含めて強化する必要がある。

「社会」

地理的分野・歴史的分野・公民的分野のすべてにおいて、市平均を上回っている。特に歴史的分野では、4.9ポイント上回っている。語句の確認テストを定期的に行っていることが結果につながったと考えられる。しかし、解答形式別で見ると短答式の正答率が市平均を下回った結果であるので改善が必要である。

「数学」

「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の全領域において市を上回っており、平均正答率で6ポイント以上上回っていた。顕著な結果として「関数」領域の平均正答率は低く「資料の活用」領域の平均正答率は高いという結果が見られたので、今後の指導の参考にしたい。もっとも、市平均正答率も同様の傾向を示しており、問題がそのような傾向にあったのかもしれない。

「理科」

平均正答率は、大阪市平均より6.9ポイント高かった。また、エネルギー・粒子・生命・地球のすべての分野において平均を上回った。特に「観察・実験の技能」を問われる問題で平均正答率が高く、授業で実験・観察を多く取り入れていることが点数につながったと考えられる。記述式の問い合わせの正答率が少し低いので、今後の課題とする。

「英語」

平均正答率において大阪市を2.3ポイント上回った。また「書くこと」以外の多くの領域、観点において大阪市を上回った。しかし「書くこと」では大阪市を0.8ポイント下回っており、「外国語表現の能力」では同率であった。

【今後に向けて】

「国語」

「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」も力がついてきているため、今後も今行っていることを続けていきたい。しかし、「書くこと」では2ポイント下回っているため、引き続き定期テスト等での作文課題を行い力をつけていきたい。

「社会」

地理的分野の正答率が他の分野に対して低いことから、振り返りの時間を設けて地理的分野の内容確認を行っていきたい。また、「社会的な思考・判断・表現」の正答率が低いことから、授業で自分の考えを発表する場面を設定するなどして補充していきたい。

「数学」

テストによって平均正答率が最も高い領域が「数と式」であったり「資料の活用」であったりと変化するが、「関数」領域が苦手であることは変わらないので、この結果を今後の指導の一助したい。

「理科」

「化学的な思考・表現の分野」においての記述式の問い合わせに弱いので、今後、授業の中で内容の定着とともに表現力も高められるよう教材を精選し、今後も実験観察の考察をしっかりと行うようにしていきたい。

「英語」

最も応用力を必要とする領域が「外国語表現の能力」であり、その正答率を上げるべく日頃の授業で重点的に取り組んでいる。更に今後も引き続き、英作文、自己表現などアウトプットを意識した重点的指導を試みたい。